平成２年度厚生省心身障害研究
「新生児期・乳児期の生活管理のあり方に関する総合的研究」

母乳栄養の継続と影響因子

（分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究）

研究協力者　山内芳忠

要　約：新生児早期の母児同室制と早期頻回授乳が産科新生児室退院後の乳児の母乳栄養の継続に影響するか否かを研究した。その結果母児同室制と早期頻回授乳は乳児の母乳栄養の継続に大変重要であることが判明した。

見出し語：新生児・乳児・母乳栄養・母児同室・早期頻回授乳

目　的：新生児の母乳栄養の確立のため母児同室制の導入と早期頻回授乳の実施が大切である。母児同室制の新生児の授乳回数は母児異室の場合に比して有意に多い。しかも生後24時間以内の授乳回数はその後の授乳回数を決定しており、早期頻回授乳を受けた新生児は母乳摂取量（日令3と日令5）が多く、高ビリルビン血症は減少し、生理的体重減少からの回復も早い。この様に母児同室制の導入と早期頻回授乳は新生児の母乳栄養の確立に大変有用です。しかし長期効果、母乳栄養の継続にも影響しているか否か不明である。今回この点をあきらかにすることを目的に検討した。

対　象：母児同室制の新生児について早期頻回授乳をうけた児は母乳栄養の継続が有意に多いか否か分析した。

結　果：その結果生後１ヵ月時の母乳栄養率は母児異室群で79.3％に対して母児同室群は86.7％と高率であった（表1）。しかも母児同室群の児で、生後24時間以内の授乳回数が4回以下だった児の１ヵ月時の母乳栄養率は77.4％であったが、授乳回数5回以上の児では95.2％と高率に母乳栄養が継続していた（表2）。生後１ヵ月、3ヵ月、6ヵ月における乳児の体重や体重増加率と授乳回数との因果関係は明らかでなかった。今回の検討から母児同室制と早期の授乳回数は母乳栄養の確立ばかりでなく母乳栄養の継続にも大変大きく関与していることが示唆された。最終年度は多くの症例について分析しこの点を明確にしたい。

国立岡山病院小児医療センター
Children's Medical Center, Okayama National Hospital

表1

Effect of Rooming－in／not Rooming－in on the Rate of Breast Feeding in Infants at One Month

	Breast feeding	Mix feeding	Formula
Not Rooming－in	88／111 (79.3％)	21／111 (1.8％)	2／111 (1.8％)
Rooming－in	85／ 98 (86.7％)	13／ 98 (13.3％)	0／ 98 (0％)

表2

Effect of Breast Feeding Frequency During the First 24 Hours After Birth on the Rate of Breast Feeding During the Infancy

Frequency (times／24hrs)	1 month	3 month	6 month
0－ 4	24／31 (77.4％)	18／31 (58.0％)	18／31 (58.0％)
5－12	20／21 (95.2％)	16／21 (76.2％)	14／21 (66.6％)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:新生児早期の母児同室制と早期頻回授乳が産科新生児室退院後の乳児の母乳栄養の継続に影響するか否かを研究した。その結果母児同室制と早期頻回授乳は乳児の母乳栄養の継続に大変重要であることが判明した。